

# 五感と数値で環境をみる ～答えなき世界を考える～



松名瀬干潟(松阪市) 干潟とは、潮の満ち引きによって陸が見えたり、見えなくなったりする所。

【お話を伺った人】



学校法人梅村学園 三重中学校・高等学校

にし とも たか  
教諭 小西 伴尚さん

博士(学術)  
専門は昆虫分類学・森林生態学・  
遺伝学、理科授業研究、環境教育。  
2014年 国立科学博物館より野依  
科学奨励賞受賞。

## 松名瀬干潟って？

みなさんは干潟についてどれくらい知っていますか。

干潟は、形成される場所により「前浜干潟」「河口干潟」「潟湖干潟」というように分類されます。松名瀬干潟は、この3つの典型的な干潟がすべてそろっている希少な場所です。干潟の代表例として扱われることもあります。

三重中学校・三重高等学校の科学技術部は、この貴重な環境に住むさまざまな生きものを調査し、データを分析し、考察し、発表を続けています。

松名瀬干潟の調査を続ける意味や調査からみえてきたことについて、科学技術部の指導にあたっている学校法人梅村学園三重中学校・三重高等学校教諭 小西伴尚氏にお話を伺いました。

## おもしろい！

「子どもの頃、カミキリムシなら、私にも捕まえることができたのです。」と言う小西

先生。「4つ年上の兄は素手でセミをうまく捕まえるのに、私はいつも逃げられてしまった。それではおもしろくなくて、近くにあった柳の古木にいたゴマダラカミキリに興味を持ったのがきっかけで今の私がいます。」

小西先生は、父親が大学教授、母親が画家という、自然に触れ、いきものや植物を細かく観察する機会の多い家庭環境に育ちました。中でも父親の師である、いきもの大好き、昆虫大好きなノーベル化学賞受賞者 福井謙一氏の影響を受けて、昆虫っておもしろいなと思ったそうです。

好奇心が高じて、いろいろな虫を集めては図鑑で調べ、場所の違いによって虫の種類がちがうことや、植物によって集まる虫がちがうことに気づき、珍しい種類や気になった虫やいきものは実物を見てみたくなると言います。大学で昆虫分類学の研究室に属し、大学院修士・博士ではボルネオの熱帯林の研究を経て、このおもしろさを次の世代に伝えたくて、現在は、中学生・高校生の指導にあたっています。その活動は、いきもの調査の考察はもちろん、生徒の潜在能力を巧みに引き出し、引き上げて、実績を積み上げています。